



令和元年 7月 16日

報告者 大高一敏

調査研究及び研修報告書

日程 令和元年 5月30日(木)～ 5月31日(金)

参加者

視察(調査)先 帯広市 帯広畜産大学

会場

目的

対応者 梅津教授

1. 視察(調査)や研修等の要旨
バイオマス事業について

2. 視察(調査)や研修等の内容

Q 現在のバイオマス事業の完成度・他事例の取り組みの現状は?

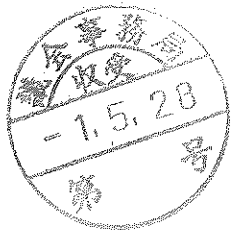
A バイオマス事業はすでに完成されており引き渡し後100%稼働が望ましい。
施設のコンパクト化が常識である。加水すると施設が大型化し、事業費が膨大になる。

Q 水産雑物残渣の洗浄水は発効促進の妨げにならないか?

A バイオマス事業はドイツが先進地。ドイツはもともと豚による事業が盛んである。豚はアンモニア窒素阻害を起こすことがあり、加水することにより安定稼働することが出来る。しかし加水過多になるとメタンガスの発生に影響が出る

3. 視察(調査)や研修等の考察・成果等

20年間の事業と事業費の回収を考えると一日も早い100%稼働が望ましい
メタンガスの安定した発生を考えると加水・豚尿の減量計画、調査が必要である。



令和元年 5 月 28 日

豊浦町議会議長 様

議員氏名 大高 一敏

調査研究及び研修計画書

下記のとおり計画しましたので届け出します。

記

- 1 日程
令和元年5月30日（木）～5月31日（金）
- 2 該当する政務活動費の活動項目
調査研究費
- 3 活動先
帯広市 帯広畜産大学 梅津教授
- 4 目的
バイオマス事業における資源として、本町の畜産ふん尿、又は水産系残さ（ホタテ雑物、付着も含む有機物）も原料とされ加水されるが、発酵促進に疑問がある。
加水はいかなるものか？又、他の畜産等、バイオマス事業の事例について伺います。
- 5 参加議員名
- 6 概算経費
40,000円
- 7 参考添付資料等
豊浦町バイオマスに関する協議会資料・定例会資料